

# 第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



中学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

『いみじ』

宮城県

古川学園中学校

一年 鎌田 薫穂

いみじ

古川学園中学校 一年

鎌田 薫穂 (かまた くるみ)

私の推しの言葉、「いみじ」との出会い、暇を持て余し、いよいよすることがなくなり仕方なく姉が勉強で使っていた古文単語帳を借りて読み始めた、一年前の夏にさかのぼります。

この\*古文単語帳は、見開き一ページに四つの単語があり、それぞれの言葉の左隣に関連するイラストが描いてあるものでした。

「いみじ」以外の他の三語はイラストとの関係がなんとなくイメージでき、現代語に少し似ている所があつて、なじみがありました。しかし、「いみじ」の隣に描かれていたイラストでは、平安時代を思わせる衣装を身に付けた男性の横に大きめの蛇、そしてその男性から吹き出して、「いみじー!」と一言。その蛇に向かって発せられているだけで、この時「いみじ」の意味を想像する事は出来なかつたのです。

不思議に思い、「いみじ」の現代語訳を見てみると、①「たいそうく・甚だしい」②「すばらしい・うれしい」③「ひどい・悲しい」と主に三つの意味がある事がわかりました。また単語解説の欄に、「くよくも悪くも、程度が甚だしいさま」、「動詞』忌む≡避ける』と関連する語」と書いてあつたのです。これを読んで、イラストの男性が言いたい事が理解出来た気がしました。しかし、私が注目したのは「いみじ」の両極端とも言える意味を持ち合わせている点でした。②と③の意味は、すばらしい・うれしいのに同時に、ひどい・悲しい…どんな時にどんな使い分けをされていたのか、私の頭の中は混乱すると同時に、一つの言葉で天と地ほどの違いを表すこの「いみじ」という言葉がとても魅力的に思えてきたのです。

この「いみじ」という言葉が生まれ、日常的に使われていた遠い昔の人々も、今の私達と同じように日々の生活の中でうれしい事があつたり、悲しい事があつたりと揺れながら生きていて、その浮き沈みは避ける事が自分では出来ず、そんなどうしようもない思いをこの「いみじ」という言葉に込めているのではないかと想像せずにはいられなくなりました。そして、遠い時代の人たちとの繋がりを感ぜずにはいられなくなつたのです。

それからというもの、この私の推しの言葉「いみじ」を今の生活の中で使い、広めていくことを勝手な使命とし、事あるごとに意識して使用し続けているのです。たいていの場合、「何それ?」と聞き返されて補足が必要となり、説明している途中で当の本人もこの使い方と合っているのかまだまだ不安になることもあります。

ちなみに古文単語帳の①から③までの「いみじ」の意味は、「どの意味かは文脈判断が必要」であると解説欄に書いてありました。使う状況や使う人の心情からどの「いみじ」か判断していく、少し遠回りのようなこの作業もまた魅力的だと思えます。

今日はどんな「いみじ」を使うことになるのか、わかる人にはわかってしまうこの言葉を自然に使いこなせる日まで、「いみじく」時間がかかりそうです。

\*『速読古文単語「改訂版」』Z会出版編集部編 株式会社Z会 二〇二一年